

## 第54回神戸市環境保全審議会 議事要旨

日 時 令和4年12月8日 15時30分～16時40分

場 所 三宮プラザEAST 地下1階

議 事

神戸市地球温暖化防止実行計画（案）の報告

事務局より、資料1及び2をもとに説明

### ○林委員

非エネルギー起源の温室効果ガス排出量の目標については、脚注36に、市の事業では「一般廃棄物処理事業」、「下水道事業」が該当すると記載されているが、市が実施すると同時に、市民の省エネやごみを減らし焼却そのものを減らしていく必要があると考えるが、そのような取り組みはどこに記載されているのか。

### ○新澤会長

2020年度に非エネルギー起源の温室効果ガス排出量が大幅に増えた理由についても併せて教えていただきたい。

### ●浜本副局長

非エネルギー起源温室効果ガス排出量の20%削減目標について、国の計画においても同程度の数値目標となっているが、市民生活においてはどうしてもごみが排出されるので、二酸化炭素を減らすのが非常に難しい。その中で、ごみの減量については、一般廃棄物のごみ処理計画において10%の削減計画としており、25年までの計画ではあるが、継続的に実施していきたいと考えている。

2020年度に非エネルギー起源の温室効果ガス排出量が大幅に増えているのは、プラスチックの焼却が増えたことが原因である。推測にはなるが、コロナの流行により、自宅で過ごす期間が増えたことにより、プラスチック容器のお弁当等も増え、排出されるプラスチック量が増加したものと考えている。2021年度の実績は減少しており、今後は減少するものと考えている。これからも推移を注視していきたい。

### ○林委員

神戸市のPRと市民の意識がかみ合っていたからか、2019年度までは順調に減少している。コロナ禍で状況は変化するが、ぜひ神戸市としても引き続き取り組んでいただきたい。

### ○宇高委員

37ページの概要のところ、公用車について「燃料の電化を行う」と記載されているが、神戸市は水素に着目し、水素カーボンシティー構想を掲げられている。将来的な公用車における水素自動車の利用について伺いたい。

●**浜本副局長**

水素自動車の普及として、公用車で水素自動車を使いながらPRも行ってまいりたい。昨年度、市長の公用車を水素自動車に転換したところである。また、公用車ではないが、公営バスもFCVを導入すべきとして、今年度調達を進めており、年度末には導入する予定である。

世間の動きとしては、現在、EVの方が勢いがあるように思うが、EVであってもFCVであっても二酸化炭素の排出量は減少するので、両輪でしっかりと取り組みたい。また、神戸市として、水素の普及啓発に努めるとともに、水素ステーションの整備等も含めて、実用的に使ってもらえるよう取り組んでいきたい。

○**新澤会長**

37ページの概要部分に水素も書き加えるということか。

●**浜本副局長**

燃料電池車も電化であるので、このように総称している。

○**新澤会長**

市民に分かりにくいように思う。

○**小林委員**

地球温暖化は、環境局だけの問題ではなく、水道局や建設局、危機管理室、教育委員会、健康局と非常に広範囲にわたる問題だと思うので、取り組みの中に横断的なシステムを入れる方が良いと思うがどうか。

●**浜本副局長**

この計画をつくるにあたり、環境局が中心となって取りまとめているが、各局の協力を得ている。今年度から、エネルギー部門が企画調整局から環境局へ移行された。また、所属名を「環境創造課」に変更した。全庁的な取りまとめをしていくことも含めて職制改正を図ったものである。計画策定だけでなく、今後の推進についても、環境局が中心となってしっかり取り組むとともに、進捗管理も適切に行いたい。

○**新澤会長**

体制について、計画の中に記載されているか。

●浜本副局長

進捗管理の部分で記載している。

○新澤会長

52ページには記載があるが、これは適応の進捗管理ではないか。

●浜本副局長

その辺りについては検討させていただく。

○渡辺委員

非常にバランスの取れた良い計画だと感じているので、このまま進めていただきたい。

これから国の方針が大きく変わる可能性もある。特に、原子力発電を取り巻く現在の流れは、かなり急激な変化が生じる可能性がある。神戸市は、原子力発電所の製造という面では本拠地でもあるため、早めに対応するべきと考える。計画の中身と直接関係はないが、原発の話が出てきた場合のことは考えておいた方がよい。

○新澤会長

取り組みの（１）の部分に関連する意見か。

○渡辺委員

そのとおり、大枠の話である。地球温暖化対策推進法に基づき、という表現がいくつかあるが、これからはその枠を出ることもあり得るのではないか、という意見である。

●浜本副局長

エネルギー政策は、非常に大きく動いている。その中で、国は、原子力に関して、現在委員会などを通じて様々な議論をしていると聞いている。いずれにしても、国が責任を持ってしっかりと対応してもらいたいものだと思っているので、我々としては国の動きを十分注意しながら、毎年の進捗管理の中で反映するかどうか検討したい。

○渡辺委員

神戸市は政令市の中では最も原子力発電所に近い。そして、原子力発電によって非常に多くの収入を得ているので、先頭を切って、自治体はこうあるべきだと示してほしいという思いがある。

○川井委員

49ページに「水環境・水資源」という項目が掲げられている。これは具体的には水道事業のことを意味していると思うが、水環境とまで書くと、50ページにある沿岸域など、広い意味での水環境との違いがわかりにくい。また、「水環境・水資源」の項目の中で、「災

害や水質事故など危機事象発生時の対応強化」と書かれているが、水質事故はどちらかというとな人為的なものであり、工場からの汚染等の話になるので、必ずしも気候変動の問題とは関わらないように思う。

さらに、この「水環境・水資源」の項目について、湧水の話は出ているが、短時間強雨等の洪水の話は入っていない。一方で、50ページの「自然災害・沿岸域」の項目では、その両方が入っている。担当部局ごとに作成されたと思うが、読み手からすると分かりにくいので、整理した方が良いと思う。

その他にも、必ずしも気候変動と関わらないような項目がいくつか入っているように思う。防災の観点からの対策が全部計画に入っている感じがするので、気候変動に伴うことだけに絞った方が良いのではないか。

#### ● 浜本副局長

ご指摘のとおり部局ごとで整理しているので、重複している部分や記載箇所が適切でない部分があるかもしれない。担当部局と相談のうえ整理する。また、できるだけ幅広に捉えているため、気候変動と関わりのない項目がないか、再度注意深く確認する。

#### ○ 川井委員

50ページの「橋梁・高架道路等の耐震化・長寿命化」についても、防災の話であり、気候変動とは話が違うように思うので、全体を通して見直していただいた方が良い。

#### ● 浜本副局長

橋梁耐震化については、これまでにない洪水への対応という意味で記載しているかもしれない。担当部局に確認しながら対応する。

#### ○ 島田委員

11ページの図10や12ページの表2など、神戸市が何をしようとしているのか一目で分かるような工夫がされている。また、できる限り定量的な目標も掲げており、これまで様々な勉強会や審議を重ねてきた成果が表れていて良い計画になったと思っている。

そのうえでやや細かい話になるが、15ページのエネルギーマネジメント実証事業の部分に、ある特定の企業名が入っている。この実証事業自体は、再エネの大量導入に向けた非常に重要な実証事業であることは間違いなく、様々な経緯から企業名を入れているかもしれないが、不要ではないか。

一方で、水素の様々な神戸らしい取り組みがたくさん記述されているが、これについては、たとえば川崎重工等の企業名は一切出てきていないので、バランスが取れていないよ

うに思う。最終判断は市にあるとは思いますが、気がついたのでコメントさせていただく。

●浜本副局長

ご指摘のとおり、たしかにバランスを欠いていると思うので検討させていただく。

○花田委員

「適応」について、適応策には2つあり、ひとつはリスクを減らすこと、もうひとつは、これから適応策を取らないといけない状況を積極的に利用して、新しい産業あるいは市場を作っていくことだと思う。これらを推し進める必要があると思うが、計画の中で分かるように記載しているか。

●浜本副局長

たとえば49ページに記載している「農業」の部分で、ICT技術を活用するといったことが当てはまると思う。体系的に整理するというのは難しいかもしれない。

○花田委員

神戸市としてせつかく実行計画を発表し、新しい産業や市場を後押しできる機会になると思うので、どのような形でも良いので記載した方が良いと思う。

○藤原委員

計画は良くできていると思うので特に大きな意見はない。

水素と電気の今後のバランスについて、特に自動車に関しては、どちらが主流になるか分からない。12ページには数値目標を記載しているが、水素や電気をどのようにバランスよく使っていくかということについて、少しコメントを記載した方が良い。22ページには、水素を活用する利点として、貯留できるエネルギーとしての有効性を記載している。他の自治体と異なり神戸市が水素に目をつけているのは、将来有効利用できる可能性が大きいと考え、重点施策にも挙げていると思うので、特に水素の有効利用を進めたい理由を書くといい。

●浜本副局長

今後の動向については分からないというのが我々も思っているところである。

計画の中では、神戸市のように水素の利活用を項目立てた計画を出している自治体は少ないと思う。やはり神戸市としては、様々な実証実験を後押しして水素を普及させていく中で、FCVについてもしっかりと普及啓発していきたい。

市場の動向あるいは消費者の方々の選択になってくるかと思うが、随時、計画を見直しながら、市場の動向をしっかりと追い、先を見据えた政策を打ち出していきたい。

○藤原委員

カーボンの貯留は計画に入れているか。すなわち、バイオマスを燃やして発電するのが主流ではあるが、燃やさずに炭化し、貯留しておくというのもひとつの炭素の排出削減と、エネルギーの利用に繋がるが、その点については考えているか。

●浜本副局長

34ページに「二酸化炭素の吸収・固定」として項目を立てており、その中で、バイオマスイエネの活用を記載している。たとえば、森林による二酸化炭素の吸収源対策で、北区のモデル事業として、バイオ炭やバイオマスのエネルギーの活用等を掲げている。

需要がなかなか見出せないところであるが、何か取り組みができないかと我々も検討しているところである。

○新澤会長

資料1について、PPAがいきなり出てくる。資料1は概要版なのでこれを見る人は多いだろうと思うが、もう少し別の言葉で表現できないか。

●浜本副局長

表現を工夫する。

○菅野委員

最後の「推進に向けて」のところ、計画の進捗管理という形で、年度ごとに細かく目標設定をしているが、やはり目標がある程度高いので、市民の皆さんや市内事業者の方の目標に対する意識向上に向けて、協力していかないといけない。たとえば、進捗状況を踏まえながら、しっかりと報告、広報していくことを進捗管理の中に入れていただく方が良いと思うのでお願いしたい。

●浜本副局長

ご指摘のとおりだと思うので検討する。

○守屋委員

容器包装に関して、神戸市でも分別したうえで相当収集されているが、特にプラスチックについては非常に雑多であるため、どのぐらいの量を収集し、資源化しているかを数値で示してほしい。たとえば、現在資源化は4割だが、それを6割、7割に増やしていける状態にあるのかどうかについても市民に示していただきたいと思う。

●浜本副局長

検討させていただきたい。

## ○林委員

巻末資料で、「脱炭素ライフスタイル選択肢の解説」というチェック項目がある。自分でもチェックはしてみたが、どれにチェックをすると、どれくらいのカーボンフットプリントの削減になるかという目安があれば、市民として意識しやすいと思う。

## ●浜本副局長

6 ページに項目ごとの削減効果を示しているが、より詳細に説明するために巻末資料に載せていた。それぞれどれぐらい削減効果があるかは、都市ごとに異なる。国立環境研究所が統計を作成していると思うので、計画に載せられるかは分からないが、一度尋ねてみたい。

## ○新澤会長

審議会が出た意見をもとに適宜修正し、パブコメに入っていただくということにしたと思うがよろしいか。

## ○新澤会長

それでは、異議がないようなのでそのようにお願いします。